令和２年度「学術変革領域研究（A）」新規採択研究領域
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	20A104	領域略称名	イスラーム信頼学
研究領域名	イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築:世界の分断をのりこえる戦略知の創造		
領域代表者名 （所属等）	黒木　英充 （東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授）		

（応募領域の研究概要）

イスラーム文明の「横への広がり」、人と人の水平方向のつながりづくりに長けた特質に注目し、これをコネクティビティの観点から検証してハード・ソフト両面における関係づくりの技術の蓄積を洗い出すこと、そして現在に至る 1400 年以上の時間とミクロからグローバルまで伸縮する空間における人と人、集団と集団の関係づくりの局面における信頼構築（トラスト・ビルディング）の実態を解明すること、その暗黙知を言語化・可視化して、今日の世界において深刻化する不信と分極化・分断化の諸問題を解決するための視座を提供し、新たな提言を行うことを目指す。

（審査結果の所見）

本研究領域は、ネットワーク、つながり（コネクティビティ）、信頼構築（トラスト・ビルデング）に焦点を当てて新しいイスラーム学を構築しようとする意欲的な学術変革を伴う共同研究であり、今後ますます重要となるイスラーム理解について時宜にかなった提案となっている。
理論研究と応用的研究にそれぞれ３つの計画研究を配しており、システマティックな構成になっているが、より一層横のつながりの連携と共時的な手法の重視が期待される。その上で、計画研究を可視化する試みとしてのデジタルヒューマニティーズが新たな計画研究（研究項目 C01）として立てられているが、対象や分野がやや限定的であるので、歴史研究のみならず、現代イスラーム社会の分析まで含めて、積極的に推進することが望ましい。また、若手・中堅研究者の重点的な参画への配慮も好感が持てるが、成果の公開も含めて、より一層の努力を期待したい。
新型コロナ状況が予断を許さない現在の状況は、海外調査の手法やその代替案を含めての検討が今後不可欠になるであろう。